

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	株式会社池田冷熱工業工場新築工事	BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★
------	------------------	-----	-----	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	2.8 / 5		がんばろう:
2 地球温暖化対策の推進	3.8 / 5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	2.6 / 5		がんばろう:
4 高齢社会への対応	3.0 / 5		ふつう

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------------	-----------------	-------------------

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2021年SDGs対応版 使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v.1.1)

1 循環型社会への貢献		スコア平均	2.9
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.5	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3 スコア 3.1
<自由記述>		<自由記述>	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均	3.8
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.6	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア 4
燃焼機器を使用せず、大気汚染物質の発生を抑えている		節水効果のある水栓、機器を使用	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均	2.7
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 3	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3 スコア 2
<自由記述>		<自由記述>	
4 高齢社会への対応		スコア平均	3.0
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	主な指標	
<自由記述>		建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級	0.79
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅: BEIm値、住宅: -	0.6
		外構緑化指数	0 %
		建物緑化指数	0 %

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社池田冷熱工業工場新築工	階数	地上3F
建設地	福岡県北九州市若松区南二島2丁目	構造	S造
用途地域	工業地域、	平均居住人員	10 人
地域区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2022年2月 竣工	評価の実施日	2022年6月10日
敷地面積	3,268 m ²	作成者	高村 龍実
建築面積	1,980 m ²	確認日	
延床面積	3,664 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
外壁・屋根・天井裏の断熱を考慮し冷暖房の負荷を抑えるようにした。また、照明器具は全てLEDとした。		特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Low-Eガラスの使用により、防音性能・断熱性を高めた。	リフレッシュスペースを設けた。	評価対象なし
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BPI _m =0.79、BEI _m =0.60	節水効果のある水栓を使用した。	燃焼機器を使用せず、大気汚染物質の発生を抑えている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
株式会社池田冷熱工業工場新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		竣工段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.0
Q1 室内環境					0.30		-		2.8
1 音環境				3.4	0.15	-	-		3.4
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音		-		4.2	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		Low-Eガラスを使用		5.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能		-		3.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		1.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音		-		3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				2.1	0.35	-	-		2.1
2.1 室温制御				3.3	0.50	-	-		
1 室温		-		3.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能		-		3.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性		部屋別に冷房・暖房切替可能としている。		4.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		-		1.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式		-		1.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				3.2	0.25	-	-		3.2
3.1 昼光利用				4.2	0.30	-	-		
1 昼光率		大きい開口部を使用した。また、高い位置からの採光を考慮した		5.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口		-		-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備		-		3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御		-		3.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度		-		2.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御		-		3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				3.1	0.25	-	-		3.1
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		全面的にJIS及びJAS規格の規制対象外材料を使用している。		4.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.0	0.30	-	-		
1 換気量		-		3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能		自然換気有効開口なし		3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				1.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		-		1.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		-		1.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.2
1 機能性				3.5	0.40	-	-		3.5
1.1 機能性・使いやすさ				3.6	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		事務室(182.07㎡)使用人数10名程度		5.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応		-		3.0	0.33	3.0	-		
3 バリアフリー計画		-		3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		天井高3.0m		5.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペースが執務スペースの26.5%		4.0	0.33	-	-		
3 内装計画		-		3.0	0.33	3.0	-		
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		-		3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-		3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		金属サイディング		3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		ビニールクロス		3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		亜鉛鉄板		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		硬質塩化ビニル管		3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		-		3.0	0.20	-	-		
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		-		3.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性		3.1	0.30	-	-	3.1
	3.1 空間のゆとり		3.4	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	-	3.0	0.60	3.0	-	
	2 空間の形状・自由さ	-	4.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり	-	3.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.40	-	-	3.0
1	生物環境の保全と創出	-	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.4
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	4.2
1	建物外皮の熱負荷抑制	モデル建物法入力支援ツール BPI _m =0.79	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	モデル建物法入力支援ツール BEI _m =0.60	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用		2.0	0.20	-	-	2.0
	集合住宅以外の評価		2.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	1.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.8
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水	節水型便器を使用している	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		2.5	0.60	-	-	2.5
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	3.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	1.00	-	-	
	3 冷媒	-	-	-	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮	全熱交換機を使用	3.6	0.33	-	-	3.6
2	地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	3.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	日影規制なし	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	